

Centimetres

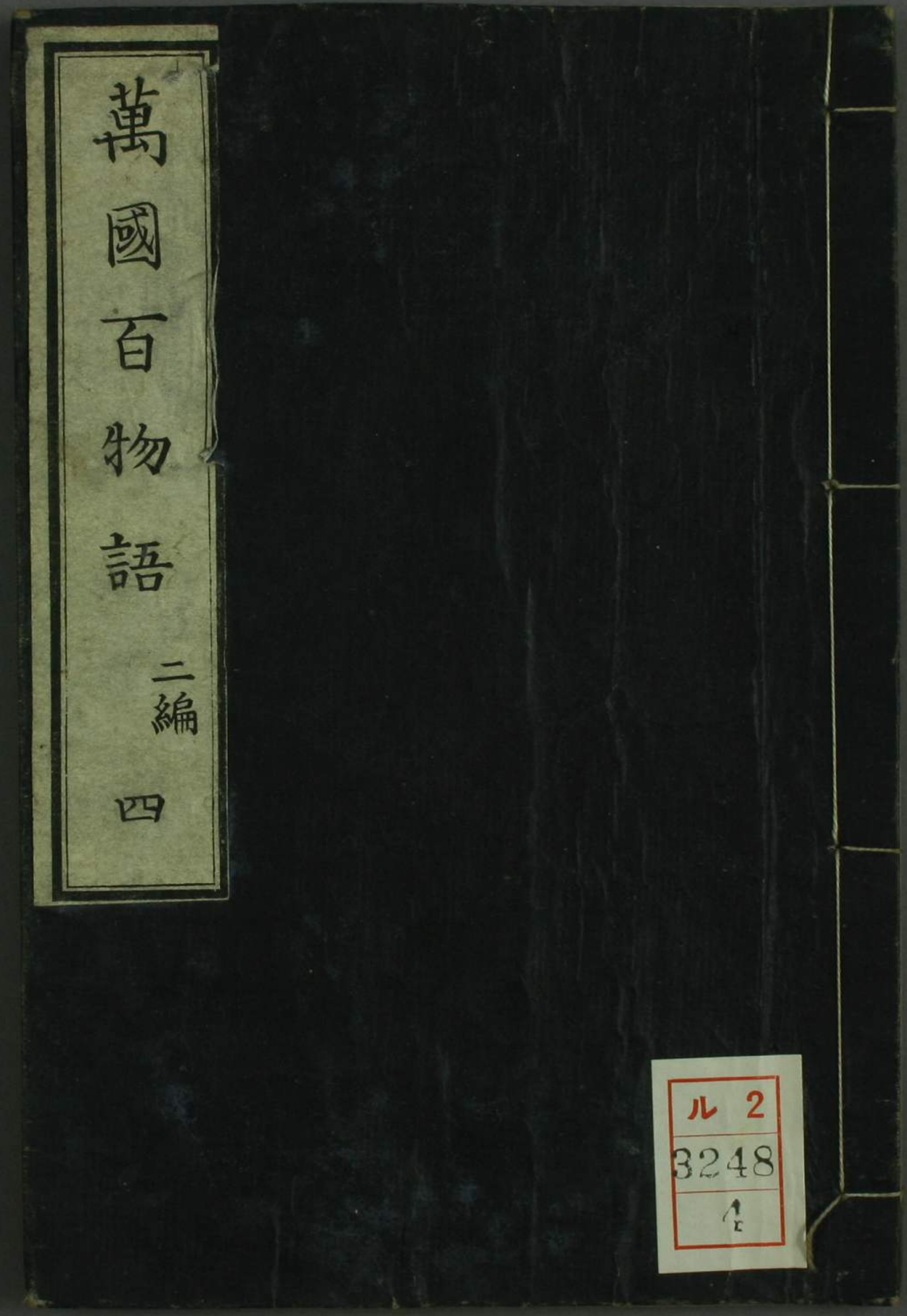
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

Kodak LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



萬國百物語
二編
四

ル 2
3248
4



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

門 2
號 3248
卷

萬國百物語卷之四

東京

瓜生政和編集

○佛蘭西國のなる

○歐羅巴中五大國の其一より南へ地中海西へ
大西洋西北へ海を隔て英吉利國東へ陸つる小
して日耳曼瑞士以太利ふ接す度数凡蝦夷
地と類すとも寒さ我東京より少く強

位置る冬ふ成りくも雪高く積り厚氷をふる
 どの稀るり土地の北の方平坦なり中央の野原
 多く南ふ至るるど山在り伊太里国西瑞国の境ふ
 へ亞爾伯嶽の山脈蜿蜒り世衆ふ名高き高山白山
 へ海の面より直立二万。五百七十八尺の高なり復
 由猶雪の白妙その峯頭を包むを以て白山の名あり
 あり河の甚ど多く其内りつとも大いなるを塞納河
 と為す「ホウルゴニー」と源なり北海に注ぐ「讓塞河」

「ロダリケン」より出く和索国に流る来因河の本初と
 日耳曼の境と流と是より和索に注ぐ国王十四世
 路易の代に大西洋より地中海まで凡二百里餘の処
 と所々の河を便りて掘割小船を以て是より通下諸物の
 運送を備へより大い便利を得るあり大西洋の
 方難得府波多府を以て第一の港とる地中海の
 方馬塞里府土崙を以て一の港と為す歐羅巴に於此
 中ふいて土地膏腴なる場所多きを以て人の心と悦ば

萬國百物語の語



一め且性命と養ふ小宜しきもの備らざるといふを
 其中ふも酒と以て第一の産物とぬす故に酒の何
 もの地ふても醸らざる所あり殊更ふ多き東北へ
 因りくるの国々あり當国の酒の多く葡萄酒と以て
 製すむが村方ふて葡萄酒と植込しる我東京
 の西の外ある大師河原雀見へんふて梨子と作り
 くるが如し

○當地の寒さ強き小因り冬ふ至るとは葡萄酒棚

の下ふて終夜焼火とをりその煙氣を葡萄酒に掩
 せせ霜の防ぎとぬるるど丹精と尽す我甲必
 ふて葡萄酒と植込の如きふあらず
 まゝ勿布と名けし葎の如き草と製衣して酒を作
 とも有るあり毎年四方へ交易ふ積出す酒二千四百
 万桶余ふ及ぶあり
 當国野飼の畜類多しとゆども戦場ふて用ゆべ
 程の良馬と産せず軍艦小造るべし位の良材出来

竹もまろくそ一鑛山ふ白銀多く黄金少く銅も又少一

蠶と養ふ場所多く在りと殊ふ盛んあると里昂の城下と為す里昂へ仏蒙西国三都の中の第一の町ふ一と歐羅巴加中なるる所なる機械場と為す故ふ高料ある物へそるは町より織出すと以て絨織と職業と為りぬの常ふ八千人ふ餘まらりこの国の曠原の中ふ潮の湖あり白き塩の結せたる

と生ず其品恰も百爾西亞国の山阜或ひは亞非利加加の大沙漠中ふ産する塩の凝固りくと同類る採りて食すべし

部中の入り海の中ふ一の異りたる草と生ずは草春ふ至ると水面ふ花と異くふ雄花雌花ありて雌花雄花の精液を請妊るが如くあるり凋こる後さる水中ふ潜るて實を結ぶ土人是とブリス子リヤと号する

英仏の抵抗の図



當町の諸方の海岸より船
 と出しく鯨と捕るの澳と
 専らとす是れ今より五十
 七年前一世拿破崙帝の
 命と下しく為さしむると
 ろうとぞ
 け国繁昌るる都會数多
 ふしく人口二万以上お及ぶ所

百七十方以上お及ぶところハツあり

○加雷の城下の英吉利の地と向ひ合の地ふしく英吉利
 のトフブルの港と僅お九里と隔てると岬の端お出
 て是望むお彼の地の丘と明らかおんるべし日々
 脚船の往来の時刻と違はずして兩國の便利お備
 ふ又海の中お彼方より此方へ雷信機
 當雷信線ハ千八百十一年お通
 の中へ線と引しは地を以て初最と為す

當城へ往昔英吉利と度々戦争と為り英吉利
 王四世義徳瓦の爲に陥とせり爰に於て
 人々切齒と爲り若し加雷城を恢復すと
 得ば三月の間囚獄に繋ぎし飲食と爲すと
 出来ずとも更にお辞すとせしと言
 せり後十七年を経て竟にお復すと
 得り爰に於て英国女王深く是を
 憤り恨と我若し死せば試み解剖と
 爲り心頭必ず加雷の文字あらんと
 二国往昔より

て不和を抱き相容とせざるを斯の如し
 拉安府へ西北の部の第一の城下あり
 人口十萬五千餘ありけし町の中
 にお安達克の銅像を置とせり
 當國七世查爾祿王の時にお英吉利
 王五世顯理の爲にお領分を八九分
 通り攻取らば只疇爾良の城の
 残り夫は兵糧を尽て落城旦夕に
 迫り仏蒙西全国とも英吉利の手
 に入らんと爲りし時にお安達克
 へ邊土の貧民の女ありて年を

十八ありーが国家を恢復すべきよりを以て神の命
 を受くると唱へ義兵を挙げ、疋爾良城の後詰を
 為し自ら真先を進んで攻戦ひ、英吉利勢を伐
 敗て城の圍を解し、終つて英兵を追退け、国
 家を全うするに至り、然れども悪人の嫉妬
 を請し、より英吉利の軍を俘囚と成り、地を於
 て焼殺せしむ。今より二百四十二年おのり、故
 小其追福を営まんが、為し設け、銅像あり

とぞ

○疋爾良府の人口五万四千餘の城下あり
 舌布克の城下の英吉利と壞の海の中へ突出し、
 所を在りて、當国第一の炮臺を構え、海の中へ
 長さ堤を築き、許多の大軍艦常おのり、内を碇泊
 す。墓場中、大砲三千挺を備へ、今より十四年
 前、英吉利の女王大軍艦隊を將ひて、地へ向ひ、時
 三世、拿破倫と、迎へ海陸の大砲を一時、打出し

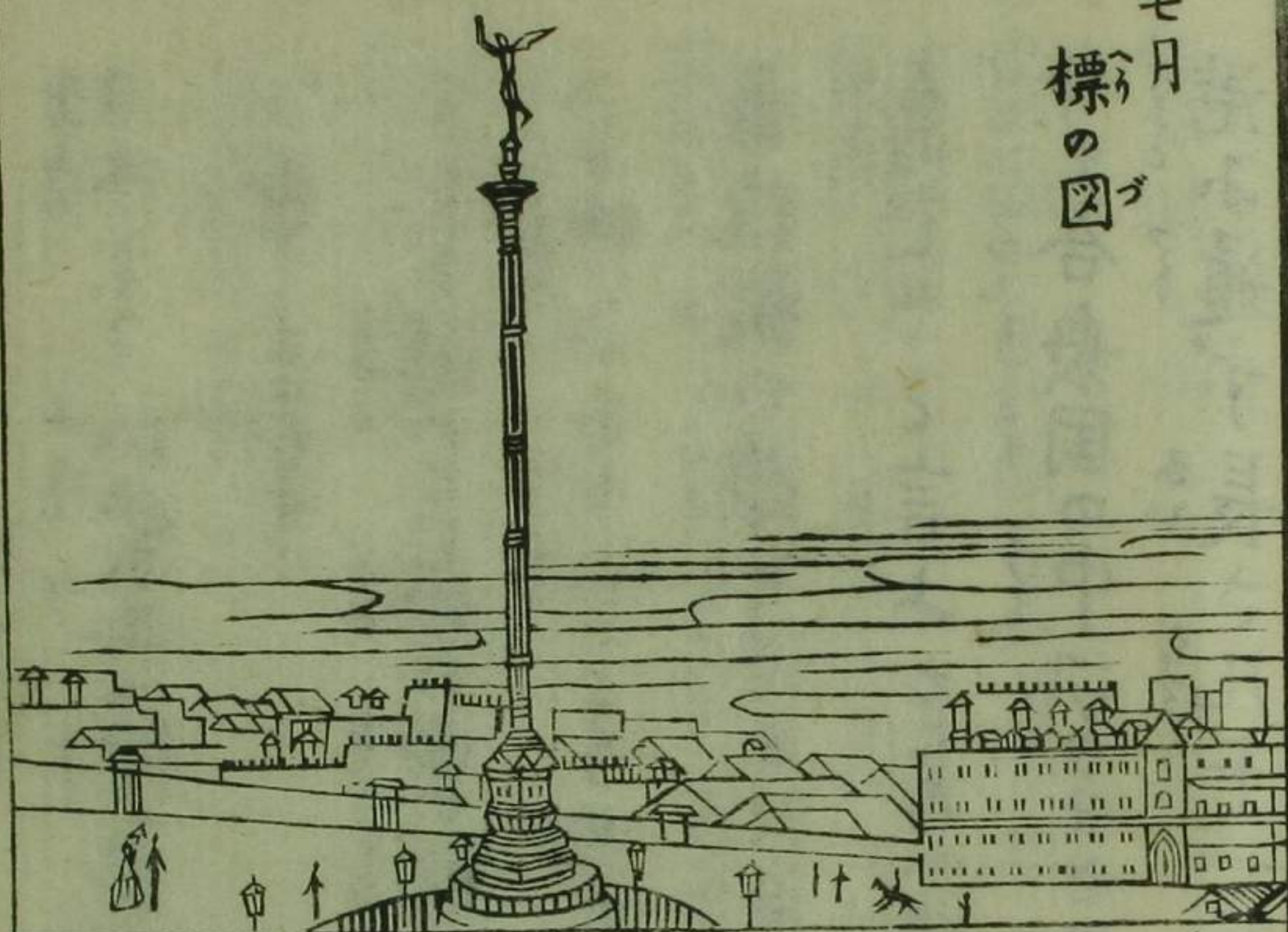
黒煙港内を掩ひて暗々たる其心中相互ひあ海軍の力を比較しつゝしものありとぞ

其近き傍りふセントミシエルと号し周囲二里ほど高さ四十丈むらりの岩窟海水の上へ突出し頂上へ往昔英国諸王の住せし居所あり風景をま

とぞ奇あり潮退くとき徒歩ふて往返出来ること我が相刃江の島のさまに似たり

○馬塞里府の城下は地中海の港ありて亞細亞

七月 標の図



非利加島との交易の要地なり且仏蘭西三都の中の三都は人口三十万餘ありて市中ありとも繁昌あり

大古二千五百年おふ希臘人の始めて居きたる地ありし因り文学の行りたるも早とて以て学校他所より多し

日本より 仏蒙西へ行ふは馬塞里港より上陸する
と常と為す

アレスト港はる国の西の外とふりて大西洋へ突出し

る所あり今より四年ほどあふは海の水中へ

電信機の線と濃め北亞米理加の東海中に在る

島曰ルと言ふところへ達し夫より又海の底を通

りて合衆国の中ツツサセツ刃の海岸ポルトラントの

港に通ず長さ凡千七百八十里あり然れども其音

信一時と待ずして達す又迅速ならずや

○當国の首都と巴黎斯とらふ是則三都の第一あり

塞納河小三十三の橋と渡り水と跨ぎて家居あり

府内と三大區小別ち町と二十街とるす家造り

こる七階八階ありて善美至らざるは往來の

上と玻璃ありて掩ひ雨雪るとして漏さぬがらの町

あり其美麗を以て言ふところの府下と世界の第一

とるす自他の人口相混りて二百万餘あり故に往

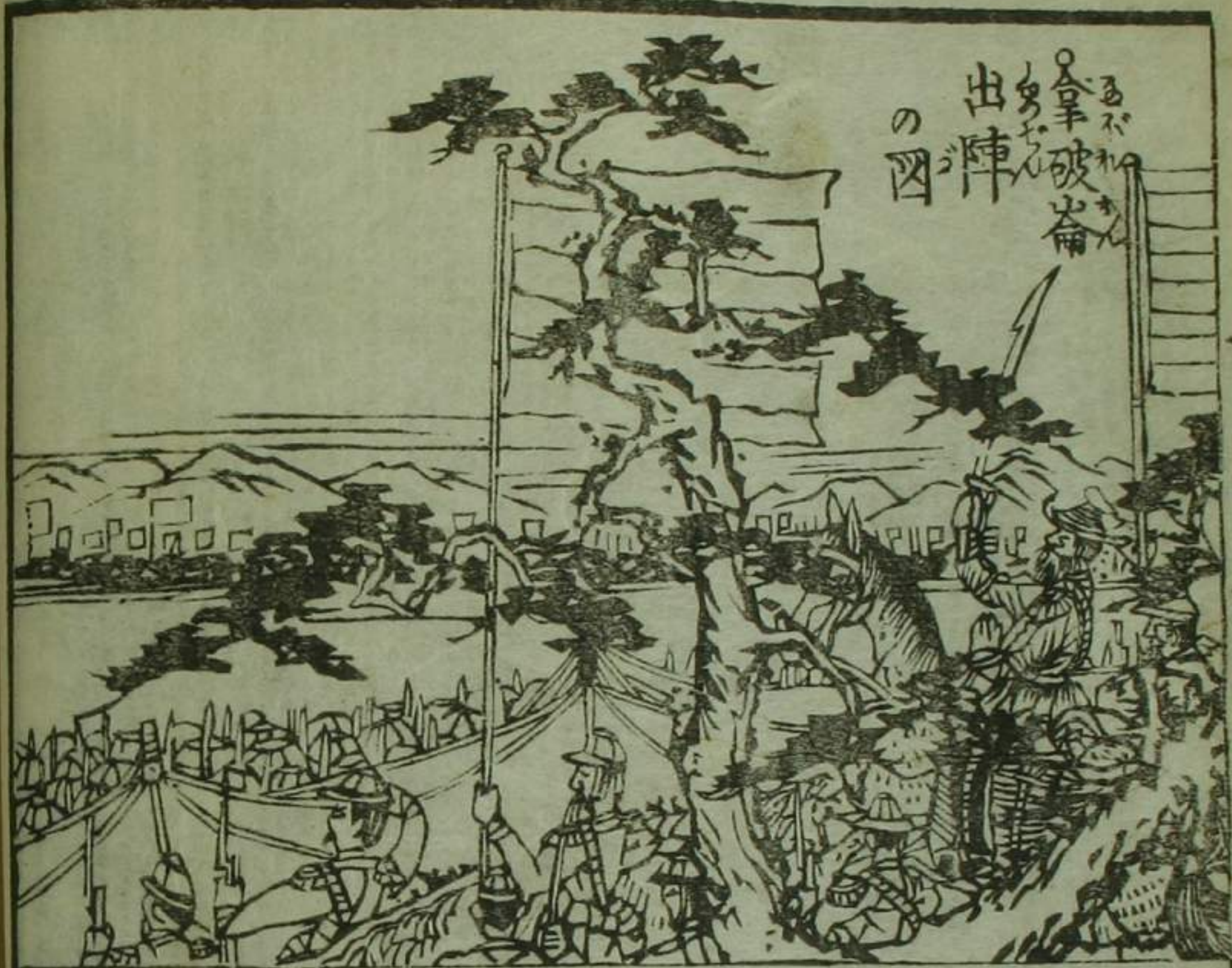
来賑きんぎょく馬車ばしや蒸気車じょうきしやの音ねいと喧わんやんいとしくども
 高声こうせいと揚あがて騒さわぎ歩ある行ゆくゆめのなく路みちの傍そばらの花はなの
 枝えだなどとも折こ入こるは是こゝれ我國わがくにの邏卒らそくと整ひと正と一はさ役やく小せむ
 ルギアンドビルと言いふ者もの二万六千人にまんろくせんありて昼ちゆう夜や市中しちゆう
 とんまのりをと以もつての故ゆゑあり

府中ふちゆうより割わり出ですところの鉄道てつどう八條ありけし処ところより
 蒸気車じょうきしや小乗せうじやうりて往ゆバ魯西亜ろしやの首都しやうと彼得堡ぺいとる
 まぐ六日半日むつにちはんにちふして達たつするあり

千ユイロリー宮みやルブル宮みやの国王こわうの居城きじやうありて美麗びんり筆ふで
 紙かみ小せう尽じん難がた王宮わうみやうの表門ひょうもん前まへとありて市中しちゆう三千ヶ所
 余あま小噴水せうふんすい器きと設しやうけて水みづを空中くわうちゆうへ昇のぼらすと十間十
 五間ごかんの高たかさ小至せうる其そのさま宛然えんぜん水晶すいしゆうの柱はしらと建たてるが
 如ごとく夜よ小入せうるが一万四千いちまんよんせんの瓦が斯燈すいとう往來わうらいと照てらす
 左右さうりゆう家々かかの玻璃障子はりまきりへ映うつりて其眺望ちやうぼう月つきよりも朗あきらら
 小露せうろよりも美うつくし
 凱弓がいきゆうの大門だいもんの高たかさ二十五間二尺にじゆうごかんにじふハシテヲシと言いふ寺てら

院の圓塔の高さ二十間余博覽會の玻璃殿の十二
 四方小地と占ハートルタムの二基の高塔の雲と凌いで
 大空小從身ゆりるど名勝旧跡挙て筆へかく
 抑當国の大古哥爾と名けし野民の住せしと羅
 馬の元師該撒といふ者は是と伐從へて領地と為せ
 しと仏榮哥と名けし人種の酋長哥羅味といふ
 者羅馬の兵と追をらひけ国の冥祖といひ成りしり
 其後代々の帝王盛衰一様ならずといふも多し

歐羅巴中ハ跋跨し所領多し廣大あり就中查
 爾祿曼帝の時と以て盛んありとみす然る小路易
 王十五世の代ハ當り国内大ハ亂とて合戦朝暮
 小絶す激徒相互ひ小殺し合と前代未聞あり云ラ
 ーステラコンコルドの地ハギョウチンと名つけし器械と
 設け人の首と斬ると日々数千人ハ及べり時ハ一世
 拿破崙勃那把爾的なる者地中海のりちる歌
 爾西克島のアヂヤシオと呼ぶ湊ハ住ふ小吏の家なる



拿破崙の陣
出陣の図

奔り千古をみの英材と以て
 殆ど歐羅巴全島を併呑為
 んとするお至まりは入や千
 七百六十九年八月十五日マジ
 ヤシオの漢お生まき千七百七
 年僅お九歳おしてフリヤン
 の学校お入りて生徒となり
 千七百八十四年十六歳おして

軍勢局の撰おより巴黎斯の兵学校お入る千七百八十
 五年十七歳おして軍勢の初等士官リウテナン役と
 ろる千七百九十五年二十七歳おして大將軍の官お昇り
 千八百〇四年三月十八日二十六歳おして仏蘭西帝の位
 お昇り第一世拿破崙と称す千八百十二年魯西亞
 国と攻て莫斯科府お討入り戦ひ破とて退陣す千
 八百十四年日耳曼列国壞地利及び瑞典魯西亞と
 とライプシツクお戦ひ軍破とて同年四月十日帝位

と利と地中海あるエルバ島に配流せらるるは処に居る
 十ヶ月翌十五年二月二十六日兵を挙げて仏蘭西の南の
 海岸にカシススの地を渡り千八百十五年二月二十日再
 び巴黎の城に入りて帝位を就くエルバ島を出て
 僅か二十五日あり同年六月十八日英吉利並普魯士和
 榮とらうとオウトルロウの丘に戦ひ敗北をせしより終に
 英吉利の軍に俘虏とあり同月二十二日亞非利加島の
 西の海の一孤島あるセントヘレナに再び流されしは処に在る

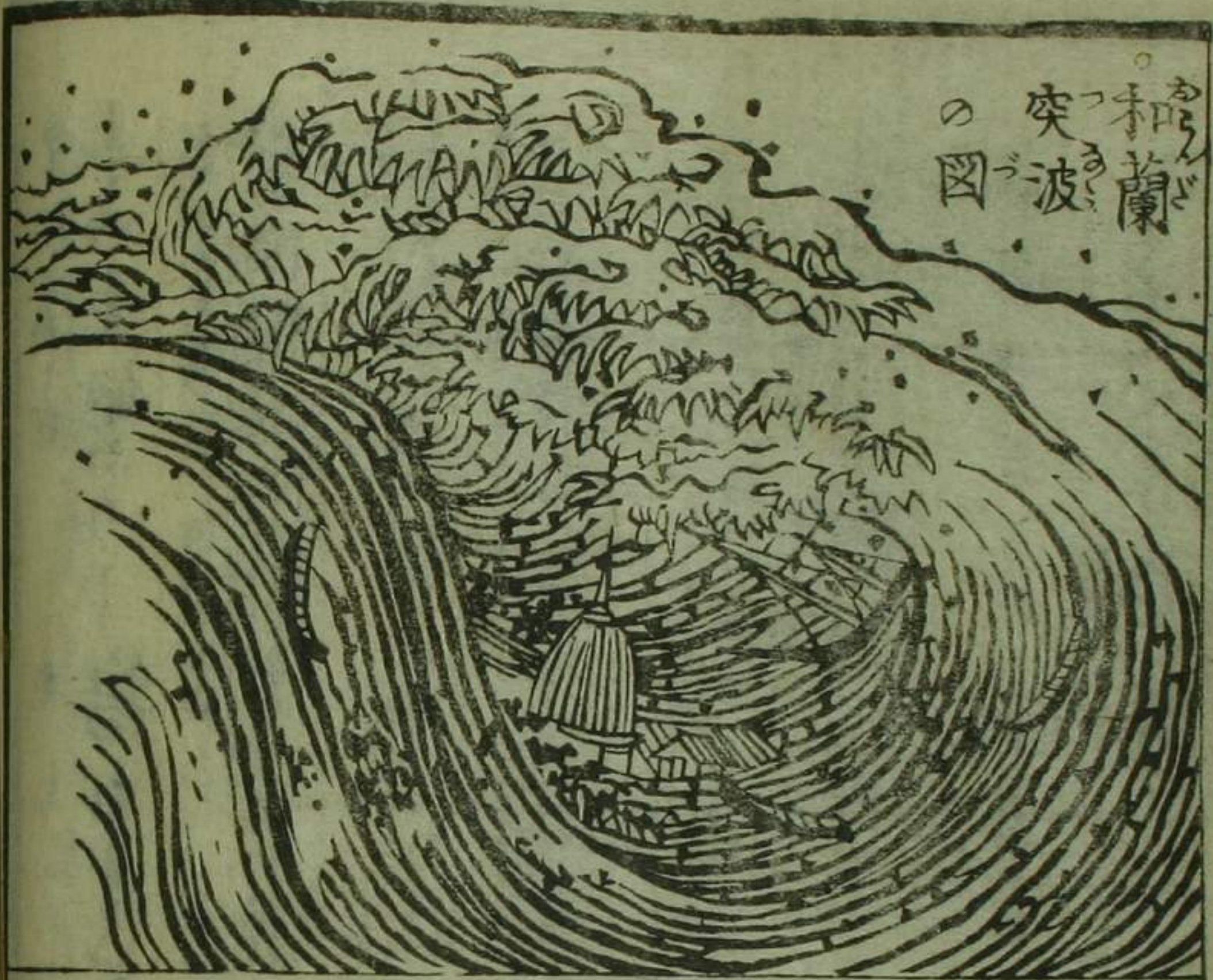
と六年千八百二十一年三月五日五十二歳にして島の
 中にお没せし今より五十一年おの事おぞ有りける
 是則に拿破崙が一代の畧記ありは帝世史とも一統
 せんとなりの志し有るが故に兵力を縦にして幾千万
 人の生命を損害せし歎息をすべしとて之れども各国
 の舊弊を洗ひ流し良法を後世に残し化を冥に諸
 の學術を進むる等お於て其功尤も大いあり後人
 の帝と慕ふ所謂のそれ爰に在る

○和蘭のそと

和蘭の九刃を合せ一通称おして九ヶ国の内和蘭洲
 のつとも肝要の地あるが故お都くと和蘭と云ふ然
 ともけ九刃を集め一総国号の尼達蘭と唱ふる
 と本来とす尼達蘭の低き地の義あり其国東の
 日耳曼小叟一南の比利时お接し西と北と北海小
 臨んで英吉利と對す国中の地勢平坦ありて高山
 むく中央より東北お至りての所々小山あるの樹

木の生敏あり一塲もまゝ稀あり然れども大河の佛
 蘭西瑞西の北の方より流と来るもの来因河謬塞河
 シケルデ河とありては三大河かの數支お分ち国
 中と縦横お亘りて北海お注ぐ殊小ゲルテラランドの
 イドホルランドの地の来因河と謬塞河と合流する所
 ありて以て春時お至り日耳曼国の山々より雪解の
 水押出す所の稍もあると激流堤坊を決つて平地
 小浸し入り麥を作りて畑牛を飼ふ牧るど沼澤と

和蘭の突波の図



成るの患ひ少らざる甚う
 至りては家庫人畜の類
 ひと尽く洗ひ流し一村一郷蕩
 然と跡なき物あり実小国家
 と慙むの手宛よく往届くの
 風俗もまじもけ患ひと防ぐ
 の術少く然まじも内地小
 至りては水害と除る小巨万

の金銀と惜まらず大いなる堤と築きて是が備えと
 ぬせり又所々へ掘割の河と通じ諸物運送の便りと
 あり且水と落すの路とぬす故小河水堤の上と流れ
 往来堤の下小あり人の仰いで小船の高く行通ひ
 すると名を仏榮西人ことと名けて凸彫形の江渠と
 云ふ取分け掘割の河の大いなる今より五十二年お小
 作りし物ふして和蘭の北海より始りて首都安特
 堤の府下小通ずその長さ二十五里ありて幅二十間

深き四間ある小因り七十四門の大砲を備へる軍艦
とりども自在小往來出来るるりは堀割の入り用二百二
十五万両かゝり云ふ

まゝ北海より打揚る狂浪を御宗の
大沙塘の南
仏蒙西と白耳義国の境より始まり北へテキセルと
云ふ地小至る土手の下の浪打除ふ大いある石を沈め
或ひの長大の杭を建て巧みふ是が備へと設るとりども
沙塘より激浪のぬ小打壊さる既小ゼーランドの

地も古へ内地と連りてシケルデ河の出口ありと狂
浪一たび堤を決りて打入り後其所遂小島の形
とある南海の瀬りもまゝ大狂浪小衝揚らとてテ
キセルフリーランド等の多くの島を造り出しゴロニン
ケンランドヨーストフリースランドの地も往昔の二十ニゲ村
の富て麗へり所ありと今より六百四年お南海の
狂浪のぬ小一時小村々と蕩ひ掃り二ツの島とあり
とるあり故小南海の濱りへもまゝ大いある沙塘と

築いて其患そのうれひふ備そむふ氣候きこうの所ところおよろ一様いちやうをらずと
 之これども多あまく寒さむ冷ひやふして陰湿いんじつと含あむ然しかりとて人の
 身体しんたいお害がいあるわどふいあらず国くにの中物うちもの体たい冥めい狼ろう主しゅよく
 往届むきら殊ことふ畜ちくと飼かひふの牧盛ぼくせいんふして殆かたど尺地せきちと遺のこ
 さる程ほどあり故ゆゑふ自国じこくおて用もちゆるの外ほか毎年まいねん他国たこくへ
 賣渡うりわたすもの牛うし七万三千頭しちまんさんこう小牛こごう三万六千頭さんまんろくこう羊ひつ十
 七万頭しちまんごう豕し六万頭ろくまんごうふして其價そのあたい合あせて四百三十餘よきんじゆ万兩
 前後ぜんごありまゝ乾酪かんらくおよび牛酪ぎゅうらくと出すの高影たかかげと

くまゝ八百五十三万五千兩はちひゃくごじゅうさんばんごせんごうふ至いたる牛酪ぎゅうらくは代国よこくにを以もつて
 歐羅巴中えうらぱちゆうの上品じやうひんと羊ひつの毛けも軟やわらうふして細こま一いち岩田いわのち地の
 産物さんぶつとして各国こくこくへ積出つみだす加非かひの皆東印度みなひがしいんどうお在ある
 属国ぞくこくより産さんする処ところあり鯨くじらの漁り教魚きやうぎよ打うちりるもの業わざの
 政府せいふおて教しよえぬさむる物ものとぞ金剛石こんごうせきの細工場さいこうじやうの
 首都しよと安特堤あんとていを以もつて世せの弟にい一いちと為なるあり故ゆゑふ歐
 羅巴らふの国くに々ごとおて大おほいある金剛石こんごうせきと得えるとまゝは代よこに
 持来もちきり琢磨たくまをすとすると云いふ

鹿特堤の城下の謬塞河小瀬んで市町と造り人員
 十万余商船多くは府より出ると以て近來次第
 般々昌る一當国第一の交易場とす元は府と
 以て蒸気車の鉄道の止りとる一是より南の河
 蒸気船も往來おせと近年白耳義より仏榮
 西へ往の鉄道出来たり

○海牙の城下の安特堤鹿特堤の中間に有りては国
 の王城の地をといはれ各國の公使も爰に在留す人



アムステル
ダム

員は八万余に過ぎずといへども
 家造り美麗にして町の中
 の所々小廣場を設け銅像を
 置風景いとよ一国王の居城は
 街衢のあひだに在り商人の
 家居も比較して小にして粗
 り然れども画を蔵めたる
 院の如き油畫の名高きもの

有りて歐羅巴中み二と競ふところあり

安特堤の城下へ南和蘭の安特堤河小跨り市町と

造り小河府内と巡り流るを以て三百餘の橋と架し

往来と通ぜしさま殆ど日本大坂の地小似り橋は皆

石ふて造り何とも長さ六十尺濶さ七十尺不どる府

の形ちい偃月の如く両の端へ尖つて一河小張出し

内へ曲つて港と成す府内の町と二百六十ふ分け往来

廣く直し溝河と設け溝の縁へ樹と双へ植

り王宮へ宇内八竒の内の一ッふて地野湿地あるお因り

一方三千六百六十の長さ杭と填め建て是と基礎とる

一長さ四十間幅三十四間高さ十七間の宮室と作り

内外ともふ美麗目と敬馬り一竒巧心と感ぜむ内

殿八十七間餘のところと全く白き臘石お作りま

種々の臘石を用ひ地球の圖及び天球の圖と彫り

ものと置る大廣間あり其宏壯なる短紙小尽く

は是へ往昔會議院るり一と當時王宮とる

然もこの國王の常小海牙府に在るを以て唯此府
 小来りし時の設けるものには地も六百年おふと
 未だ寂しき小村なりしが追々小繁昌して三百年
 ほどおより九品第一の都府となり諸物運漕の商
 船益夜一の河を出入して白帆数里の間小連接
 りぬ人員三十万と云ふは国往昔より航海の術小
 精しきと以て海軍もまじく盛んるまじく二百二十一年お
 英吉利と戦ひ英国の達迷斯河小攻廻りて大い小

彼の軍を破り大軍艦をどと奪ひ去りし事あり
 斯の如くするまじく交易も英吉利と肩をとりて歐羅
 巴中ふての盛んるりしが仏索西帝拿破崙小併
 吞せらるる一度所々の馬頭をよび肝要の地と失るひ
 通商志をわづら廢しし事ありしもライトルロラの戦ひ小
 英吉利普魯士などの兵と共に拿破崙を伐つ
 るの功小より王国と成るものありし失ひし地も七八
 分を恢復し交易もまじく盛んるる小至きり人の

体壯健たいすくやう小力多ちからいあなくして襟度曠むくひけも念ねんるをりく
且正直まことと守り善ぜんを行なひ勉強べんきやうして操しやうと正ただしく
一節儉せつけんと尚なほぶ然しかもども儉けん小過せうかびて吝りん嗇さく小墮せうた
入いるもの少すくるうらぐすとぞ

○白耳義國びやくびしぎくわのたる

白耳びやくび義ぎ國くわの北きたは和蘭わらん東とうは普魯ぷろ士し南なんは仏蘭ぶらん西せい
は北海ひやうかい小瀕せうべん心國しんくわと七しち刃に小分せうぶんち土地とち一般いぱん小平坦せうへいたんる
もども注しゆら小至せうしらぐ故ゆゑ小耕作せうかうさく場ばよく実みけ気き

候きりも和蘭わらんより少すくく暖あつくあるゆゑ万物ばんぶつ豊饒ゆほう小して
和蘭わらん小勝せうしょうとると遠とほく亦また東南とうなんの方かたは小山こやま多おほくと
以もつて樹木じゆもくよく茂さかるとりまゝ士加爾達しかりた河が謬塞みよさい河が
二天ふた河が仏蘭ぶらん西せい日耳曼にちにまんとりの地方ちゆうかより流ながれと来きつて
国中こくちゆうと貫ぬる徹とほく狹ひまくの小河せうが縦横じゆうけいして諸しよ
府ふ小通とほすも船路せんぢの運送うんそう大おほく便べんるこの国こ
諸方しよほうへ通路つうぢの街道かいぢ小かりく故ゆゑ蒸氣じやうき車くるまの鉄てつ
道ぢ縦横じゆうけい十文字じゆもんじ小かり全国ぜんこく小在あるものと平均へいぐん

白耳義國の圖



するとさる一里四方の内へ半
 里の割合ありて是を真直
 小伸せば七百九十三里の長
 さ小至り歐羅巴中の第
 一と爲す其造築の廣大
 ある一里ありて二十万両ち
 く入用の勢ありて場所ある
 あり然れどもそとが爲す

利を得るとも夥しく諸雜費を除き鑛道一里
 あつて一万六千五百兩ほどの儲けあり故に政府は
 是を爲し一國の歳入の内の一と爲るとぞ然れど
 も海と渡りての交易へ専らと爲ると以て軍艦七
 艘商船も大小合せて僅か百十二艘に過ぎざるあり
 石炭と堀出すところ所々あり其壙多し平地
 ありてその石炭と三四年おおよそ出せり
 賣揚の金高と平均するお一年お付三千万兩

不あどふあ當あ田あると云いへりままくく鍊ると出いすい場ち所しももをを

たたぶぶ多た一一

けあ国あ元んのど和ろ蘭ろと一い国こ多くり故ゆふあ尼あ達ま雨んのな名ああり然しか

とあともあ仏ふ蘭らん西せいふあ合あせあらあまあとあ壤あ地あ利あふあ合あせあらあまあとあ西あ班あ

牙あふあ合あせあらあまあとあ国あ小こふあ一いくあ強あ国あのあ間あふあ狭あまあるあをあ以あて

数あ回あ隣あ邦あのあ為あふあ犯あさあるあ然あるあふあ合あ手あ破あ命あのあ衰あへあるあふ

及あびあ漸あくあ和あ蘭あふあ復あ一いくありあ一いがあけあ国あのあ耶あ獲あ宗あの

舊あとあ派あとあ信あとあ和あ蘭あのあ新あ一いとあ派あとあ信あずあるあをあ以あて

宗あ旨あのあ争あ論あより終あふあ和あ蘭あとあ戦あ争あをあ一いまありあ数あ度あ

戦あひあ及あびあくあまあとあ白あ耳あ義あのあ勢あのあ和あ蘭あのあ半あ端あふ

至あらあざあまあとあ殆あどあ危あふあかありあ一いとあ仏あ索あ西あ国あをあ竊あらあふあ

こあとあとあをあ應あ援あ一い其あ主あ一いヲあホあルあドあとあ云いふあ者あ仏あ索あ西あ王あ

のあ女あとあ娶ありあ一いとあ以あてあ仏あ索あ西あ人あいありあくあこあとあとあふあ加あ勢あ

せあ一いくあばあ終あふあ和あ索あのあ羈あ伴あとあ脱あとあ獨あ立あのあ王あ国あとあ成あ

りあくあらあるあり

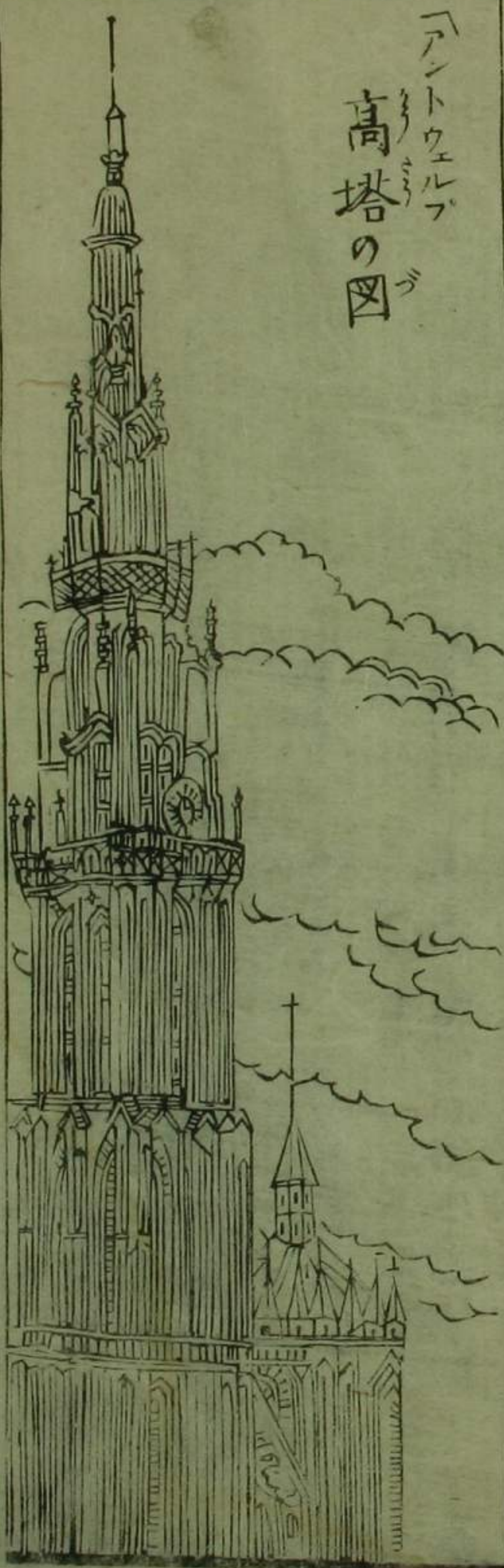
安あ都あ厄あ比あのあ城あ下あハあ士あ加あ爾あ達あ河あのあ畔あふあ在ありあ交あ易あ

盛んの市町をまじへば商船一昼夜も五百艘余の出
 入り有りて平常二千五百艘の船碇泊をせり
 歐羅巴島の中ふて第三の高塔ハ耶蕪の大寺
 あり高さ七十四間余美麗奇巧と尽す
 府の周圍に鑊板を以て張る圓ら形ちの炮
 臺を築けりもつとも堅固の拵へり人員十
 二万餘と云ふ

近的の城下の士加爾達河ハ漆ハレイス河ハムーレ河

リフエ河及び他の小川合流するところありて府
 の町二十六の小島の上を跨り建むる三百九の橋
 と架して往來と爲す府の中央に廣場在りて
 元五世カール帝の立像を安置せし跡あり

アントウエルフ
 高塔の図



「カール皇帝へ今より三百七十三年まふは府
不生る帝曾て云ふ仏蒙西全国と取ては府の
支配とぬさんと掌と返すより易々と

登り三百段の高塔あり上小重さ二千九百三十五
貫目の大鐘と掛是とロラントと名く鐘の銘小司
ラントロラントと有り其故の小一敲けば失火あり

大い小吼せば国の中小兵乱起り一と云ふことごと
當街へ植木の名呀ありて草木の培養方の上も

あるは地小及ふ者あり因りて種々の花或ひは菓実
と作り異品と仕立珍らるる品出来ると新
聞紙小載て世小弘め好事の人の求めと待ゆえ
小植木屋活計の者多し人員十万余あり
比律悉へ全刃の首都ありて国王是ふ居たり
市町小山小跨り家居とよく摸拓たり建つるが
都府の景色小於ては歐羅巴中の随一なり
王宮寺院へ元より商家とども山巍々たる高楼

と設け善尽し美至らざる所なり府中の所々も
 清潔なる廣濶路ありて種々の銅像立ちまじりて
 ントヒユベルトと云へる町の往来の上と玻璃おく蔽ひ
 らるる雨降り雪落るの日も一滴の雫を漏さず
 故に歐羅巴の人々の府と斥け小巴黎斯と云ふ
 是の総ての容子仏蘭西の首都巴黎斯に似
 らるるを以てあり人員二十五万五千餘といふ
 仏蘭西帝拿破崙が列国の大軍と激戦あり

る名高き故戰場華徳路への府より四里石と南
 の方ありて銅お造り大いなる獅子の側お石碑
 と建て當時の事と記せしもの残も有り
 人の和蘭人ふ比すといひ仁恵少く劣り學術技
 藝もまじり彼が如く精微を極るふ至らず然とど
 も能く勉強しく拵び惜らざる故に耕作畜牧百工
 の稼が尽く出精あり人民の稠密へ歐羅巴中の
 第一ありて一里四方の内ふ二千五百五十九人あり

萬國百物語 四

廿六

當ると云ふ

和蒙白耳義の元一國あり羅馬の元帥該撒ガイサが歸

一仏蒙哥の族が従ひアウグスタ埃地利アウグスタを取らると云ふ西

班牙イサパが合アハせらる然るシウお宗教アウキキウの事コトより西班牙と

戦争センソウが及び終ハり獨ドク立リて合衆政事カウジウセイジの国クニとる

り阿蘭治アランヂ公維廉キリヤンと云ふ人ヒトが推オシして會盟カウメイの主ヌシとわ

す是則當時コノトキの和蒙國王ワモンクワウの祖ソあり斯カく和蘭西

班牙イサパの戦争センソウ前後ゼンゴ兩度リウタクが渡り八十年間ハチジュウネンカウが及び

全く和伐ワバツあるお至イる其後ソノノチるや英吉利イギリスと戦タひ仏

蒙西モンシと争マカひ数回スウカイ與ヨ突ツクありル後宗門ゴウシウモンのシ議論ギロウより

国内クニノウチあり南ミナミの方カタと北キタの方カタと戦争センソウ始ハジまり和蒙ワモン

王ワウ北キタあり有アると以ヨり南ミナミの方カタを征セイ伏フクせんトなるお南

の方カタへ仏蒙西フモンシの兵ヘイ應援オウエンするト以ヨり力チカラを尽ツクすと

ども勝カチと能アわず今イマより二十四年ニジュウヨンネン前マエ終ハり和議ワギ

と結ムスんで南方ミナミの七シチ弱ジュウ獨立ドクリツとある是則コレトキ白耳義ハクニギあり

然シカども白耳義ハクニギの都府ト聖ホウ學ガク術ゲツの盛サカん

ありありの全まことく和あつん蒙維廉ごうりく公れむの力ちからお因よるところと
云いへり白耳びやく義王ぎおうの始祖しその留波波爾多りゅうははにるとといふ人ひとあて
日耳曼にちるまん列国れつこくの中うち薩克各堡さくかくほう公こうの子こありけり

萬國百物語四 終

一 萬國百物語

全八冊

一 和英名頭字盡
雜書

全一冊

本所亀沢町

東京書肆

宮田伊助藏板

